

夢中熱中青春ライフ! 7回バドミントン大会

十二所バドミントンクラブ

11

「バシツ、バシツ」という音を残し、一・五五メートルのネット上を飛び交うシャトルコック(羽根球)。精一杯に手足を伸ばしてシャトルを追うその額に、汗がきらめきます。今回ご紹介するのは十二所バドミントンクラブ。会長の秋元貞一さんからお話を伺いました。

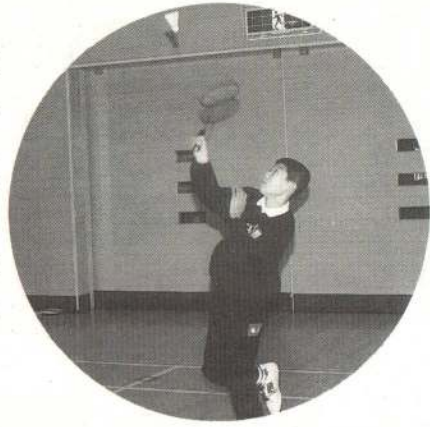
どなたでも 気軽にどうぞ

クラブは去年十周年を迎えました。創設者は畠山さんという人で、今でも名誉会長としてがんばってもらっています。メンバーは、名簿上はたくさんいますけれど実質二十人ぐらい

い。小学生から五十代の人までと年代の幅は広いんです。腕前の方も同様で、上には元国体選手という人もいます。今はコーチ役を買ってでももらっています。クラブのキャッチフレーズは「だれでも気楽にできるスポーツ、バドミントン」。底辺を広く、やりたい人はどなたでもどうぞという方針です。

メンバーの三分の一ぐらいは十二所地区以外の人で、大館から来てる人も何人かいますよ。

年代や腕前に幅があるのはいいんですが、うまくならないかと思ってる人たちに、満足してもらえてるのが心配したこともあります。でも不満もないようです。社会人が多いし、これから団体とかでもないですわね。



小学生のメンバーもバシッ!



練習の合間にハイ、ポーズ(後列右端が秋元さん)

汗を流せて、ストレス解消になって、楽しければと思ってます。

もしかして オリシピック!?

練習は日曜日と木曜日、十二所体育館で夜八時ごろから九時半までやっていますが、クラブでは、夏はキャンプに行ったり、冬はスキーに行ったりと、バドミントンのほかにもいろいろやって親睦を深めています。そっちの方がよくて来ているような人もいますよ。(笑)

今度、バドミントンもオリシピック種目になるようですが、クラブには十代の人からいますので、もしかすると若い子の中から将来オリシピック選手が誕生するかも、なんて考えると楽しくなっちゃいますね。

江東区発 → 大館着

前略

大館市民になりました 12

▽今回は南ヶ丘の山崎一之さんご一家です。
Q・ご家族は何人ですか?
四人です。妻と娘が二人。上の子は二歳五カ月、下の子は七カ月です。

Q・どちらから転入されましたか?
東京都江東区から、去年の四月に来ました。妻は大館の出身、私は長野県松本市の出身です。

Q・大館の印象はいかがでしたか?
東京と比べるのは良くないかもしれませんが、何もないとかなど少し感じました。でも自然が近くにあるのはいいですね。私は星を見るのが好きですから、満天の星はうれしいです。それに人の気質がいいというのか、気軽に話しかけてもらえるのがありがたいです。

Q・言葉や食べ物などでとまどいはありませんか?
病院勤務という仕事柄お年寄りや接することが多いんですが、わからないことがよくありますよ。「エヘル」というのも覚えましたが、最初は何かなと思いました。食べ物は何でも大丈夫なんです。トンブリやハタハタが好きです。



Q・大館にどんなことを望みますか?

公園が近くにはいいですし、レジャー施設なんかもできるといいですね。それに道路はもう少し効率的に整備したらいいと感じます。家族でよく外食するんですが、ファミリレストランなんかも少ないですわね。短大とかで若者を増やせば街も活気づくと思います。



一之さんと恵美子さん、長女歩惟ちゃん(右)と二女佑香ちゃんです。

〈お詫び〉 2月16日号クローズアップの文中、小松さんを小林さんと誤記した箇所がありました。お詫びして訂正します。